

留学報告 2

県立広島大学 保健福祉学部 理学療法学科

小武 悠

【留学を決意した理由】

私が初めに留学にいかうと思った理由は、「これがしくてデンマークに行きたい」というはっきりとした理由ではなく「海外で英語を使って生活してみたい」という漠然とした気持ちでした。大学の4年間で海外の理学療法学生と関わる活動をしてきたこともあって、英語の魅力を知る機会が多くありました。そして、いつかは海外で生活してみたいと思うようになり、その気持ちが加速し、学部を休学して留学に行くことを決意しました。なんのためにいくのか、なにをしたいのかといったことは、友人や大学の国際センターの先生がデンマークに留学していたこともあって、相談にのってもらった上で、ノーマライゼーションをテーマに「日本とデンマークでの障害に対する考え方の違いを学ぶこと」を今回の留学の目的に設定しました。

私は、日本で理学療法学生として大学で勉強するほかに訪問看護師としてのアルバイトをしています。理学療法学生としての実習や訪問看護師としての経験のなかで、障害のある人たちとサポートする人たちとの関わりになんとか違和感を抱いた機会がありました。それは、「これがやってみたい」「あそこへ行ってみよう」というモチベーションを本人が持っているにも関わらず、「危険だから」「これが足りないから」「周りに迷惑がかかるから」というように行動を起こす前にサポートする側の人たちが判断をすることでトライ&エラーの回数が少なくなってしまっていると感じていました。障害に対する考え方の中でも、特に、この意思・行動決定の方法について、福祉先進国として知られるデンマークではどうなのかということを今回の留学で学んできました。